

強相関電子系の国際会議

ウラン電子系研究グループ 大 貫 惇 睦

本年8月24日～28日に長野市の長野コンベンションビューローで開催された山田コンファレンス・強相関電子系の国際会議について報告する。会議の議長はウラン電子系グループリーダーの大貫惇睦（大阪大学大学院教授）であり、ドイツ、米、フランスなどの外国からの参加者129名、日本人参加者391名、合計520名であった。会場はかつて冬季オリンピックのプレス発表として使われた600人規模の建物で、照明を考慮したポスターボードが設備されていて、本会議の規模としてはぴったりの会場であった。

この国際会議は、希土類、ウラン化合物の磁性と超伝導を主体にして、高温超伝導体を含む遷移金属化合物や有機導体などの最近の発展も加味した会議である。毎年開催されていて、去年はパリで行われた。特に本会議で主題にしたテーマは、超伝導と量子臨界点、非フェルミ液体、電荷と軌道秩序、ドハース・ファンアルフェン効果によるフェルミ面の研究と光電子分光、新物質系での近藤効果、異方的超伝導、少数キャリア系であった。本会議の様子は信濃毎日新聞でも報道された。

コーヒーブレイクにはいろいろなパンやお菓子及び新鮮な果物を提供し、くつろいでいただいた。また、

懇親会では信州大学混声合唱団のご協力を得ながら、各国の民謡を楽しんだ。

本会議終了日には、最優秀ポスター賞が6名の方に与えられた。そのうちの1名は写真の芳賀芳範さん（ウラン電子系グループ研究員）「 UPd_2Al_3 における重い伝導電子の発見」であった。来年はブラジルで開催される磁気国際会議の中に組み込まれて行われる予定である。

